

(大口市青木松尾山)

位置と環境

遺跡は大口市の市街地からほぼ東の方向に約4 km離れた、標高約225mの台地上に立地している。

調査の経緯

発掘調査は農免農道整備事業に伴って、大口市教育委員会が平成元年度（1990）に確認調査を行った。確認調査により遺物が出土した範囲については平成2年に県教育委員会の協力を得て本調査を実施した。

遺構と遺物

調査の結果、遺構は確認されなかったが、縄文時代早期の土器や石器が出土した。

土器は前平式土器を中心に出土している。この土器は、斜めの貝殻条痕を施した後、貝殻復縁により縦あるいは斜めの刺突を施しているものである。底部はヘラ状の工具により、縦の短い沈線を廻らしている。器形は円筒形が多いが中には角筒も存在する。石器は石鏃、石匙、スクレイパー、楔形石器、石核などが出土している。中でも石鏃は小型剥片を素材とし、両面に入念な二次加工を施した小型三角形鏃



第1図 松尾山遺跡の位置

と呼ばれる石鏃が多量に出土している。

特徴

縄文時代早期の時期で小型三角形鏃が多量に出土している遺跡はほかに例がなく、この遺跡の大きな特徴といえる。

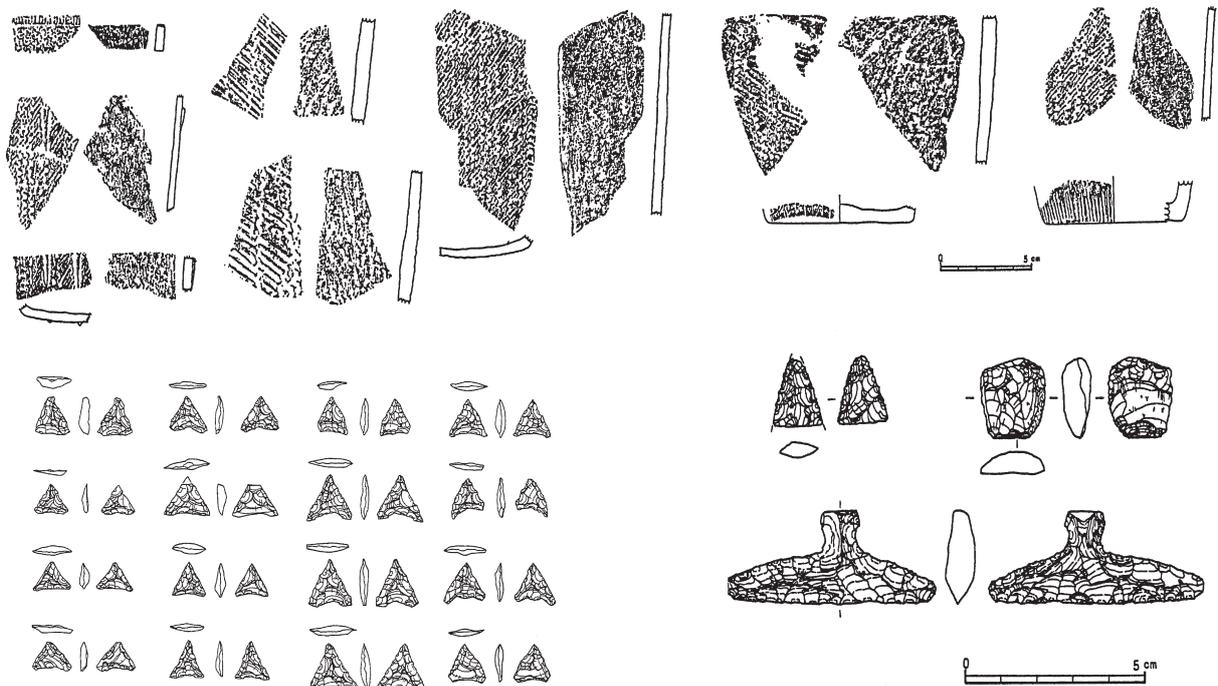
資料の所在

出土遺物は、大口市教育委員会に保管されている。

参考文献

大口市教育委員会1990「松尾山遺跡」『大口市埋蔵文化財発掘調査報告書』7

(井ノ上秀文)



第2図 出土遺物